

最優秀賞

愛他的な「普通」を求めて

島根県雲南市立掛合小学校六年

朝山華乃^{あさやまのか}

皆さんは「普通」という言葉を聞いたことがありますか。もちろん多くの人が聞いたことのある言葉だと思います。でも、「普通」って一体どういうことなのでしょう。

私は、お父さんやお母さんによく言われる言葉があります。それは、「女の子だから。」という言葉です。私は自分のことをたまに「俺」と言うことがあります。その時すかさず「女の子なのに・・・」と言われます。また、片づけをちゃんとしていないと、「女の子なんだから・・・」などと言われます。これは、お父さんやお母さんにとって「女の子の普通」なのかもしれないけど、私にとっては普通じゃないのです。そう考えるとますます普通がどういう意味なのか分からなくなりました。国語辞典で調べてみると、「いつも。たいてい。」という意味が出てきました。私はこの意味を見て、お父さんやお母さんは「女の子がいつもしていること」を私に求めているのだと分かりました。でも、私も思い出してみると、「普通」こうでしょう。などと使っている時があります。そういう時は、「普通」という言葉を使うことで、人に自分の当たり前をぶつけていたり、自分を中心として考えていたりしている時だということに気が付きました。さらに、自分と相

手の普通がぶつかり合うことでけんかや、ひどくなれば戦争にまで発展してしまうのだからとも考えました。だから私は、「普通」という言葉を使って、自分の当たり前をぶつけるのではなく、互いの普通を尊重して、相手に寄りそいながら会話をしようと思います。自分を中心として話すのではなく、相手の普通を予想したり、客観的に見て会話をしたりすることが大切だと考えます。

私は永井隆記念館に行つて、永井博士の生き方を学びました。博士は、自分が白血病になつても、すべての人の命を平等に助けようと力を尽くされました。命がけで人の命を救つた博士の生き方は、かっこいいなと思いました。博士の生き方から、すべての人を大切にする、つまりすべての人の「普通」を大切にすべきだと教えられたような気がします。

そしてもう一つ、なくてはならない普通があります。それは「戦争は普通しない。」「人が嫌がることは普通しない。」などです。この普通がなくなつてしまうと、日本が平和な国ではなくなつてしまいます。つまり、永井博士が願つてこられた平和も、実現できなくなります。だから私は、人を大切にしない普通はなくしたいと思います。一人一人にちがう「普通」があり、その一人一人の「普通」を大切にすると世の中こそが平和な世の中なんだと思います。だから私は、永井博士の如く愛人の言葉のように、愛他的で皆の事を守るような「普通」を大事にしていきたいです。そうすることで、すべての人の「普通」を守っていけるのではないかと思います。